



慶應義塾大学ビジネス・スクール

売掛金・買掛金・棚卸資産

5

1 現金と当座預金

会計上、現金とされるものは、通貨¹のほか、他人振出の小切手、送金小切手、郵便為替証書、株式配当金領収証、支払期日が到来した公社債の利札など、ただちに通貨と引き換えることができる通貨代用証券である。このうち、他人が振り出した小切手が現金として扱われることには、とくに注意が必要である。小切手を振り出す^{ふりだし}2ためには、次に述べる当座預金が必要である。

10

当座預金は、銀行との当座取引契約にもとづく無利息の預金である。当座預金には、現金のほか、他人振出の小切手や手形を預けることができ、当座預金の引き出しには小切手を使うか、口座振替による。現金で、ビジネス上の決済（代金の受け取り・支払い）を行なうと不正・誤謬が生じやすい上、手許に記録も残らないので、できるだけ、銀行を経由するのが内部統制上も望ましい。また、あまりに多額の現金を受け渡すのは、現実問題として不便である。銀行に当座預金をつくれれば、ビジネス上の決済に小切手や手形を使えるようになる。

15

次のような取引を考えよう。

1. 手許にあった現金 1,000,000 円を銀行に預け、当座預金とした。

20

この取引においては、手許にあった現金という資産が 1,000,000 円減少し、当座預金という資産が 1,000,000 円増加している。資産の増加と資産の減少の組み合わせである。したがって、増

¹ ここでいう通貨は、独立行政法人造幣局が製造する貨幣（硬貨）と日本銀行券である。

² 小切手を振り出すことを「小切手を切る」ともいう。

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授太田康広が複式簿記の演習問題として作成した。ケース中の企業は架空のものである。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 太田康広（2009 年 1 月作成）

える資産（当座預金）が借方、減る資産（現金）が貸方に記録される。

(借)	当座預金	1,000,000	(貸)	現金	1,000,000
-----	------	-----------	-----	----	-----------

5 2. 元住吉工務店からの依頼で資材を運搬し、代金 3,000,000 円を同店振出の小切手で受け取った。

(借)	現金	3,000,000	(貸)	売上	3,000,000
-----	----	-----------	-----	----	-----------

この取引においては、現金という資産が増え、売上という収益が発生している。他人が振り出した小切手は現金勘定で処理することに注意しよう。

10

3. 武蔵小杉屋からの依頼で商品を運搬し、代金 400,000 円を送金小切手で受け取った。

(借)	現金	400,000	(貸)	売上	400,000
-----	----	---------	-----	----	---------

この取引でも、現金という資産が増え、売上という収益が発生している。受け取った送金小切手は現金勘定で処理することに注意しよう。

15

4. ガソリンを 60,000 円分購入し、代金は小切手で支払った。

(借)	燃料費	60,000	(貸)	当座預金	60,000
-----	-----	--------	-----	------	--------

20

この取引では、燃料費という費用が発生するとともに当座預金という資産が減少している。小切手を振り出すと当座預金が減少することになる。実際に、小切手が換金されるには一定の期間がかかるため、元帳上の当座預金残高と銀行における当座預金残高は一致していないのが普通である。決算においては、銀行勘定調整表と呼ばれる財務表を作成し、元帳上の当座預金残高と銀行における当座預金残高が一致しない理由を確かめておく。

25

なお、他人振出の小切手を受け取ったときは、現金勘定の増加で処理するが、自己振出の小切手を受け取ったときは、当座預金勘定の増加で処理する。

5. 元住吉工務店の依頼で資材を運搬し、代金 100,000 円をかつて自社が振り出した小切手で受け取った。

30

(借)	当座預金	100,000	(貸)	売上	100,000
-----	------	---------	-----	----	---------

2 棚卸資産の会計

ここまで、在庫品をもたないサービス業（運送業）を例として、仕訳を説明してきた。しかし、商品を購入・販売する商業や、原材料等を購入し、製品を製造して販売する製造業も、経済全体の中で重要な役割を果たしている。次に、在庫品を持つ企業の在庫品売買の取引の記録方法を説明する。

会計では、在庫品のことを^{たなおろし}棚卸資産 (inventory) と呼ぶ。棚卸というのは、在庫品の数を勘定したり、その原価や売価を記録する作業のことである。棚卸資産は、棚卸の対象となるような資産という意味である。

棚卸資産の記録方法には、分記法と三分法がある³。分記法は、単純な方法であるが、大規模な商品売買を営む企業では三分法のほうが一般的である。

2.1 商品売買の分記法

商品売買取引を分記法で記録する場合には、売上勘定は使わず、代わりに商品勘定（資産）と商品販売益勘定（収益）を使う。商品の仕入時には、商品勘定に原価（買ったときの値段）で記録し、商品の売上時には、売り上げた商品の原価を商品勘定に貸方記入するとともに、売上金額と原価の差額を商品販売益勘定で処理する。

6. ある商品 10 個を単価 10,000 円で仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

(借) 商 品	100,000	(貸) 当 座 預 金	100,000
---------	---------	-------------	---------

単価を表わすとき、アットマーク (@) を使って、「10 個@ ¥10,000」というように記述する。近年、インターネットの普及で、アットマークは、ホストやドメインを表わすときに使うことが多い。しかし、もともと、タイプライターのキーボードにアットマークが入っていた理由は、ビジネス上、単価を表わすために使われていたからである。

7. 単価 10,000 円で仕入れた商品 2 個を 1 個 15,000 円で販売し、代金は小切手で受け取った。

(借) 現 金	30,000	(貸) 商 品	20,000
		商品販売益	10,000

なお、商品を仕入原価未満の価格で販売したときは、商品販売損勘定（費用）を使って処理する。

³ このほか、売上原価対立法と総記法と呼ばれる方法がある。売上原価対立法は、本質的には三分法と同じであるが、販売された商品の原価を商品勘定から売上原価勘定へ振り替える点にちがいがあ。ただし、売上の都度、商品勘定から売上原価勘定への振替仕訳が追加的に生じるので手間がかかる。総記法は、1 つの商品勘定で仕入と売上を処理する方法である。この方法は、歴史的には一定の意義があるものの、現代においては、合理性がとぼしく、計算が面倒であり、実務的にも使用されていないので、説明を割愛する。

8. 単価 10,000 円で仕入れた商品 2 個を 1 個 8,000 円で販売し、代金は小切手で受け取った。

(借) 現 金	16,000	(貸) 商 品	20,000
商品販売損	4,000		

5
10
15

商品売買の分記法は、直観的にわかりやすい処理方法であり、常に商品の手許在高と商品勘定の残高が一致しているというメリットがある。しかし、いくつかの問題点も指摘できる。まず、販売した商品の原価が商品勘定に貸記（貸方記入）されてしまうために、現在までの売上に対応する売上原価（販売した商品の原価）の額がわかりにくい。売上原価を調べるためには、商品勘定の残高だけでなく、期首商品在高と期中仕入高も調べなければならないことになる。また、分記法では、経営上の重要数値である売上高がすぐにはわからない。売上原価の額を明らかにしたあと、それに商品販売益を加えてはじめて売上高が判明する。さらに、販売のつど、販売した商品の原価を調べなければ、仕訳を切ることができない。しかし、通常、商品を販売するとき、その商品の原価を正確に把握しているとはかぎらない。とくに、仕入単価のちがう同一商品を扱っている場合、個々の商品の原価は意識されないのが普通であろう。以上のような難点があるため、分記法は、取引頻度が低く、売上高や売上原価をつねに明らかにしておく必要のない項目に対して適用することが多い。たとえば、有価証券や貯蔵品など、収益の総額にあまり意味がなく、取引頻度の低い項目に利用される。

2.2 商品売買の三分法

20

取引頻度が高く、取引量の多い商品に対しては、通常、三分法が適用される。三分法は、商品の動きを、繰越商品勘定（資産）、仕入勘定（費用）、売上勘定（収益）の 3 つに分解して記録する。期中の仕入はすべて仕入勘定で処理し、期中の売上はすべて売上勘定で処理する。

三分法のほうが分記法よりも一般的な方法なので、以後、商品取引は原則として三分法で処理することにしよう。

25

9. ある商品 10 個を単価 10,000 円で仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

(借) 仕 入	100,000	(貸) 当 座 預 金	100,000
---------	---------	-------------	---------

30

10. 単価 10,000 円で仕入れた商品 2 個を 1 個 15,000 円で販売し、代金は小切手で受け取った。

(借) 現 金	30,000	(貸) 売 上	30,000
---------	--------	---------	--------

しかしながら、三分法における仕入勘定は、厳密な意味では費用勘定ではなく、ある種の未決算勘定であることに注意する必要がある。ここで、未決算勘定というのは、期中においては、その項目の性格や金額が確定せず、決算においてはじめて、項目の性格や金額が確定するような勘定のことである。考えてみると、当期販売した商品は、そのすべてが当期に仕入れた商品であるとはかぎらないし、当期に仕入れた商品のすべてが販売されるともかぎらない。期首にも一定の在庫があり、期末にも一定の在庫が残っているのが普通であろう。これらの点を、決算時にははっきりさせる必要がある。

この点について、三分法においては、前期から繰り越された商品在高や次期に繰り越す商品在高は、繰越商品勘定を使って処理する。決算時には、期首商品在高（前期繰越商品の額）と当期商品仕入高、期末商品在高を利用して、当期の売上原価を計算することになる。

話が混み入ってきたので、議論を整理するために、もう一度、ストックとフローについての一般式を思い出そう。期首のストックに、期中に増えた分を加え、期中に減った分を引けば、期末のストックになる。

$$(\text{期首ストック}) + (\text{インフロー}) - (\text{アウトフロー}) = (\text{期末ストック})$$

これを商品にあてはめると次のようになる。

$$(\text{期首商品棚卸高}) + (\text{当期商品仕入高}) - (\text{売上原価}) = (\text{期末商品棚卸高})$$

つまり、売上原価は、期首商品棚卸高に当期商品仕入高を足して、期末商品棚卸高を引くことで計算することができる。

$$(\text{売上原価}) = (\text{期首商品棚卸高}) + (\text{当期商品仕入高}) - (\text{期末商品棚卸高})$$

この関係を図式化すると図1のようになる。

決算のときは、繰越商品の残高が期首商品棚卸高にあたり、仕入勘定残高が当期商品仕入高にあたる。

11. 期首の繰越商品の在高は、600,000円であった。

(借)	仕入	600,000	(貸)	繰越商品	600,000
-----	----	---------	-----	------	---------

ここでは、繰越商品という資産が減少し、仕入という費用が増加している。

12. 期末の手許商品在高は、700,000円であった。

(借)	繰越商品	700,000	(貸)	仕入	700,000
-----	------	---------	-----	----	---------

期首商品棚卸高	売上原価
当期商品仕入高	
	期末商品棚卸高

図 1 売上原価の計算

ここでは、仕入という費用が減少し、繰越商品という資産が増加している。以上の2つの仕訳は、期首の繰越商品を仕入勘定へ流し込み、期末商品棚卸高を繰越商品へ戻し入れて、仕入勘定の残高を当期の売上原価に等しくしているのである。この時点で、仕入勘定残高を新しく設けた売上原価勘定（費用）へ振り替えてもよいが、仕入勘定のまま、これを売上原価とみなすことにしてもよい。おそらく、売上原価勘定を設けないほうが一般的だろう。

3 営業取引による債権債務

3.1 売掛金と買掛金

企業が商品等を購入したり、販売したりするとき、代金をすぐに回収しないケースがある。実際、取引相手を信用して代金を後日回収するという約束で売買することは比較的一般的なことである。これに類する表現として、飲み屋の支払いをすぐに行なわず、「ツケておいて」ということがあるが、これは「帳簿につけておいて」という意味であろう。企業間の取引においても「ツケ」はある。この「ツケ」のことを普通は「掛」と呼ぶ。企業が信用で商品等を販売することを掛売といい、企業が信用で商品等を購入することを掛買という。企業が掛売したときに生じる債権を売掛金といい、企業が掛買したときに生じる債務を買掛金という。

一般に、企業が営業活動を行なっていくと、自分が属する業界については情報が自然と集まるため、かなり事情に詳しくなっていくだろう。個々の取引先についても、仕入や売上のパターンから、ある程度、経営成績や資金繰りが想像できるようになる。また、取引先であるから、経営者や従業員と個人的なつながりがあり、その人柄もある程度は知っていることが多い。

こういう私的情報は、これらの取引先に融資しようとする人にとっては大変貴重なものである。

業績がよく、資金繰りに余裕があれば、その企業が倒産する確率は低いので、安心して融資できる。しかも、取引を継続して行けば、取引先の業績や資金繰り、財政状態の変化に関する情報が、半ば自動的に入ってくることになる。つまり、取引先については、取引のない企業よりも、情報の非対称性が小さいといえる。

このように、企業の営業活動にともなって自然に発生する情報は、明らかに経済的な価値がある貴重な情報である。しかし、こうした情報は、ほかの人に移転しにくい性格を持っている。そこで、企業自身がその情報を利用し、取引先に融資することが考えられる。これが、売掛金や買掛金が存在する理由である。

13. 元住吉工務店に商品を 300,000 円で販売し、代金は掛とした。

(借)	売 掛 金	300,000	(貸)	売 上	300,000
-----	-------	---------	-----	-----	---------

これは、売掛金という資産が増加し、売上という収益が発生したという取引である。

14. 菊名商店から商品を 100,000 円分を仕入れ、代金は掛とした。

(借)	仕 入	100,000	(貸)	買 掛 金	100,000
-----	-----	---------	-----	-------	---------

これは、仕入という費用が発生し、買掛金という負債が増加する取引である。

15. 元住吉工務店に対する売掛金 300,000 円を同店振出の小切手で回収した。

(借)	現 金	300,000	(貸)	売 掛 金	300,000
-----	-----	---------	-----	-------	---------

これは、売掛金という資産が減少し、現金という資産が増加する取引である。

16. 菊名商店に対する買掛金 100,000 円を小切手を振り出して支払った。

(借)	買 掛 金	100,000	(貸)	当 座 預 金	100,000
-----	-------	---------	-----	---------	---------

これは、買掛金という負債が減少し、当座預金という資産が減少する取引である。

3.2 貸倒損失と貸倒引当金

得意先（顧客）に対して掛売した場合、売掛金が必ずいつも回収できるとはかぎらない。得意先の資金繰りがうまくいかず、倒産する場合もあるからである。売掛金が予定どおり回収できないとき、売掛金が貸し倒れたという。貸し倒れた売掛金は、貸倒損失勘定（費用）に振り替え、売掛金勘定を同額だけ減額する。

17. 元住吉工務店が倒産したため、売掛金 100,000 円が貸し倒れになった。

(借)	貸倒損失	100,000	(貸)	売掛金	100,000
-----	------	---------	-----	-----	---------

これは、売掛金という資産が減少し、貸倒損失という費用が発生する取引である。

5

当期、生じた売掛金が当期貸し倒れた場合はしようがないが、決算時に残っている売掛金については、実際に貸し倒れる前に貸し倒れ見込み額をあらかじめ見積もっておくことになっている。過去の経験則や、得意先とのビジネスを通じて得た特別な情報にもとづいて、実際に貸し倒れる前に将来の損失を見越すことになる。しかし、まだ実際に貸し倒れは発生していないので、売掛金を直接減額するわけにはいかない。そこで、売掛金に対する評価勘定（マイナスの勘定）として、かしたおれひきあてきん貸倒引当金勘定を設けて、将来の貸し倒れ見積もり額をあらかじめ貸方記入しておく。貸倒引当金勘定に貸方記入することを、貸倒引当金を引き当てるという。

10

ただし、貸倒引当金に貸方記入するにあたっては、見合いの相手勘定が必要となる。この相手勘定として、貸倒引当金繰入勘定（費用）が使われる。

15

18. 決算時の売掛金残高 2,000,000 円に対して、2 パーセントの貸し倒れを見積もった。

(借)	貸倒引当金繰入	40,000	(貸)	貸倒引当金	40,000
-----	---------	--------	-----	-------	--------

19. 翌期において、実際に貸し倒れ 10,000 円が生じた。

20

(借)	貸倒引当金	10,000	(貸)	売掛金	10,000
-----	-------	--------	-----	-----	--------

貸倒引当金の残高の範囲内の貸し倒れであれば、単純に売掛金と貸倒引当金を相殺すればよい。しかし、現在の貸倒引当金残高を超えて貸し倒れが生じた場合、貸倒引当金をすべて戻し入れるとともに、超過額に対して、追加的に貸倒損失を計上するほかない。

25

20. 翌期において、実際に貸し倒れ 50,000 円が生じた。貸倒引当金残高は、30,000 円である。

(借)	貸倒引当金	30,000	(貸)	売掛金	50,000
	貸倒損失	20,000			

30

決算時において、将来の貸し倒れの見積もり額よりも、貸倒引当金残高が大きい場合、貸し倒れの見積もりが過大であるので、超過分を収益として戻し入れる。この場合は、貸倒引当金戻入勘定（収益）を使う。

21. 決算時の売掛金残高 2,000,000 円に対して、2 パーセントの貸し倒れを見積もった。現在の貸倒引当金残高は 50,000 円である。

(借) 貸倒引当金 10,000 (貸) 貸倒引当金戻入 10,000

5

過年度（当期より前の会計年度）に貸し倒れとして処理した売掛金が、当期になって回収できる場合がある。この場合には、償却債権取立益勘定（収益）で処理する。

22. 前期に貸し倒れとして処理した元住吉工務店に対する売掛金 100,000 円のうち、80,000 円を現金で回収した。

10

(借) 現金 80,000 (貸) 償却債権取立益 80,000

4 練習問題

15

このノートに含まれている仕訳を練習問題として再掲しておく。以下の取引は、必ずしも、1つの企業が連続的に行なった取引とはかぎらない。練習問題解答は、本文に掲載されている。

1. 手許にあった現金 1,000,000 円を銀行に預け、当座預金とした。

20

2. 元住吉工務店からの依頼で資材を運搬し、代金 3,000,000 円を同店振出の小切手で受け取った。

3. 武蔵小杉屋からの依頼で商品を運搬し、代金 400,000 円を送金小切手で受け取った。

25

4. ガソリンを 60,000 円分購入し、代金は小切手で支払った。

30

5. 元住吉工務店の依頼で資材を運搬し、代金 100,000 円をかつて自社が振り出した小切手で受け取った。

6. ある商品 10 個を単価 10,000 円で仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

7. 単価 10,000 円で仕入れた商品 2 個を 1 個 15,000 円で販売し、代金は小切手で受け取った。

5

8. 単価 10,000 円で仕入れた商品 2 個を 1 個 8,000 円で販売し、代金は小切手で受け取った。

10 9. ある商品 10 個を単価 10,000 円で仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

10. 単価 10,000 円で仕入れた商品 2 個を 1 個 15,000 円で販売し、代金は小切手で受け取った。

15

11. 期首の繰越商品の在 high は、600,000 円であった。

12. 期末の手許商品 in high は、700,000 円であった。

20

13. 元住吉工務店に商品を 300,000 円で販売し、代金は掛とした。

25 14. 菊名商店から商品を 100,000 円分を仕入れ、代金は掛とした。

15. 元住吉工務店に対する売掛金 300,000 円を同店振出の小切手で回収した。

30

16. 菊名商店に対する買掛金 100,000 円を小切手を振り出して支払った。

17. 元住吉工務店が倒産したため、売掛金 100,000 円が貸し倒れになった。

18. 決算時の売掛金残高 2,000,000 円に対して、2 パーセントの貸し倒れを見積もった。

5

19. 翌期において、実際に貸し倒れ 10,000 円が生じた。

20. 翌期において、実際に貸し倒れ 50,000 円が生じた。貸倒引当金残高は、30,000 円である。

10

21. 決算時の売掛金残高 2,000,000 円に対して、2 パーセントの貸し倒れを見積もった。現在の貸倒引当金残高は 50,000 円である。

15

22. 前期に貸し倒れとして処理した元住吉工務店に対する売掛金 100,000 円のうち、80,000 円を現金で回収した。

20

25

30

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

不 許 複 製

慶應義塾大学ビジネス・スクール

三美印刷 2009.1 P150